

みつくら

令和 5年10月15日 第396号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

岩手日報に菅原さんと板垣さんが紹介

8月3日付けの岩手日報に「厳選野菜・軽トラ産直」と菅原祐さん(南田家)が大きく紹介された。紙面の4分の1を占めたその記事は『おいしい県産野菜でみんなを笑顔にー。移動産直(菅原祐代表)は、盛岡市内を中心に約40の農家から仕入れた新鮮な野菜を移動販売し、生産者と消費者をつないでいる。』との文面で始まり、農家からの直接仕入れで、消費者にはおいしさにこだわり野菜ソムリエの資格を活かして、スーパーでは買えない独自の野菜を届けていると結ばれていた。

また、10月2日付けの県南版には「建設業にICT親子で見学」に北上市の小原建設がドローンを使って最新測量をする子供達の体験記事に現場代理人の板垣大樹(廿木家)さんが指導している記事が掲載されていた。大瀬川に関する岩手日報の記事は久しぶりであった。

手踊りパレードに大瀬川から5名

石鳥谷町好地の熊野神社例大祭は、明治中期から好地地区の例大祭であったといわれるが、昭和55年に「南部杜氏の里・石鳥谷まつり」と名称を変えて「令和5年度第42回南部杜氏の里石鳥谷まつり」は9月8~10日に行われた。コロナ禍で3年間中止となったので開催は今年で42回目という。

9月10日には好地の繁華街で各保育園の神輿、さんさ踊り、各小学校の鼓笛隊やダンス、神楽、中学生の吹奏楽、民俗芸能保存団体の神楽や鹿踊り、さんさ踊りや手踊りパレードに続いて、神輿(3台)や山車(5台)などのパレードが繰り広げられた。手踊りパレード(60名)には、大瀬川から板垣ケイ子さん、菅原文子さん(茶畑竈家)、熊谷美奈子さん、板垣淑子さん、高橋久美さんの5名が参加し、揃いの浴衣姿での「新石鳥谷音頭」「石鳥谷うかれ音頭」に合わせた群舞は見応えがあった。

また運営側には石鳥谷商工会から島山勝敏さん、更生保護女性の会の板垣福子さん、熊谷敏江さん、交通指導員の菅原房子さん、防犯協会の熊谷幸夫さん達も見受けられた。

大きな猪7頭が目撃される

9月9日の早朝に菅原昭悦さんが、ブルリの杜の西側で大きな猪の群れに出会った。咄嗟にスマホで撮った動画を筆者は見せられたが、どれもが大きな猪なのに驚いた。こんな大きな猪なら、わけなく畦を壊すのも当然だろう。

菅原さんがいるのに動画の猪は逃げ出しもせず、悠々たるものだった。その後は砂利の農道を、群れのまま森子家の方へ向かった所で映像は切れていた。それにしても、あんな大きな猪の群れが小屋場付近に出没しているとなると、7区だけでなく8区でも電気柵をまわさねばならなくなるのか・・・。

猪にサツマイモを荒らされる

9月27日に9区の熊谷幸夫さんのサツマイモ畑が猪に荒らされた。筆者が後日見に行った所、まるで人が収穫したみたいにつとマルチを見事に左右に分け、一つ残らず食べ尽くしていた。熊谷さんは、「前にも付近の畦が荒らされた形跡があったが、まさかサツマイモが荒らされるとは」と話していた。今後、電気柵を検討しなければとも語っていた。

幟旗設置協賛会が銘板更新へ

第8区山祇神社幟旗設置協賛会(菅原純一会長)では「ブルリの杜」の西側にある旗台に、9月11日に幟旗を立て9月13日に旗下げを行った。参加者は両日16名であった。菅原会長は挨拶で「平成23年に設置した時の協賛者の銘板は読み取れなくなったので、今年度に更新を予定しています。その節には協賛会の皆さんにご協力をお願いします」と話された。設置時には、8区の方々73名が会員であったが、今までに死亡や転移などで熊谷キクエさん、板垣昭彦さん、佐藤忠治さん、板垣栄さん、板垣功さん、熊谷弘子さん、熊谷藤五郎さんの7人減って現在は66名が会員となっている。

厳かに山祇神社例大祭

9月12日に直町清均宮司のもと、山祇神社の例大祭が関係者27名が出席して執り行われた。午前9時にご神体を神輿に移す出御祭のあと車両6台と消防自動車2台に分乗し神輿渡御に入った。

坂ノ上家~梨の木家~上野々家~小屋場信号~瀧鼻家~松木田家~橋見家~宇南木家~善助家~天神家~11:30天満宮で例大祭と昼食。再び、神輿渡御は赤坂家~深田家を北上し茶畑竈家~南田家~喜左衛門家~金鑄神~廿木家~たばこ屋~林家~旧治兵衛家~田中家~助作竈家~助作家~分かれ~百目木家~清五郎竈家~山祇神社に入御し15:00から山祇神社例大祭が行われた。今年の山祇神社例大祭もコロナが終息していないため、直会は行われなかった。

猛暑被害で板垣さんがテレビ放映

9月12日のIBCテレビ・ニュースエコー「霜や猛暑が農産物を直撃」で、板垣武美さんのピーマン被害が放映された。番組の中で板垣さんは「9月になってピーマン価格が上がる頃に猛

暑でこのように枯れて困っています」とハウスを紹介していた。映像にはその枯れたピーマンが写し出されていた。

板垣さんは「猛暑で黄色に色付いたものや、変形したピーマンは出荷できないので、今年の9月に比べ5割の減収です。形が少し変形しても味は変わらないのになあ」と嘆いていた。

この番組では石鳥谷町関口の小森田裕之さんの林檎被害も紹介された。この林檎被害は、林檎の花が例年より早く咲いた所に霜が降り、県知事も被害地に訪問した所でもあった。

4年ぶりに黒森神社例大祭

大瀬川近辺には、大瀬川の黒森神社と富沢の黒森神社の二つの黒森神社がある。富沢の黒森神社も令和元年から4年まではコロナ禍で例大祭を中止していたが、氏子の減少により例大祭は令和5年から廃止したという。

大瀬川の黒森神社例大祭は別当家である六盃家のもと、9月17日に氏子達30名が参列し開催された。島山絹雄さんの笛、熊谷和典さんの太鼓、熊谷茂さんの鉦で始まり、直町清均宮司からの玉串奉奠は島山勝栄別当、島山正相談役、菅原教雄山王海土地改良区理事、熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長、9区島山孝二区長兼氏子代表、島山絹雄大瀬川神楽保存会長の順に捧げられた。直町宮司から「この地には山祇神社をはじめ天満宮、黒森神社など人口に比較して神様が多く居ます。このように多くの神様から加護を受けていますので、ありがたい地であります」と説話があった。

利用者さんが活躍するブルリ祭を開催

生活介護事業所ブルリの杜(熊谷和彦施設長)は10月7日に青空のもと、感染症対策で規模を縮小し、利用者、スタッフ、家族など約60名が参加して第5回ブルリ祭を開催した。はじまりのことばで開会後、オープニングファッションショーを6名の女性利用者が行い、写真撮影も行われた。続いて、施設長の熊谷さんが「天候を心配したが晴れて良かったです。ブルリは利用者さんが楽しく、笑顔が絶えない居場所として皆さんの夢を実現していく所にしていきます」と挨拶された。

出し物では表現ダンス、歌とダンス、ピアノ演奏、親子ピアノ演奏、書道パフォーマンス、マジックショーを行い観客らは手拍子や掛け声で応援した。次は、カラオケで5名の方々が「すうじのうた」など5曲を歌い、スタッフが名前と顔写真を張った団扇で声援を送った。空にはシャボン玉が舞っていた。お食事タイムではボランティアの方々調理した芋の子汁や焼きそばなどでお腹を満たした。最後は、みんなで大瀬川音頭を踊って閉会となった。

祭りの進行では、出演者の特技や施設での日常生活が紹介され、保護者の方々も家では見られない入所者の側面を見られたようだ。

施設内では作品の展示や実演も行っていた。次回は、地域の人も参加できるようになれば良いと話していた。

みつくら

令和 5年 10月15日 第396号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

敬老祭の裏方「実行委員会」

10月1日号の「みつくら」で詳しく紹介された令和5年度大瀬川地区敬老祭は9月16日に行われたが、今号では盛會裡に終わったその敬老祭の裏方を紹介する。敬老祭の主催は毎年「大瀬川敬老祭実行委員会」であるが、令和5年度の構成は大瀬川活性化会議（民生児童委員含む）11名、行政区長3名、自治公民館長3名、ボランティア団体3名、大瀬川子供育成会1名の合わせて20名で構成。

委員長に熊谷秀夫さん（総括）、副委員長に畠山勝敏さん（来賓接待、開式）同じく副委員長に高橋厚子さん（記念撮影、閉式）と菅原房子さん（進行、送迎）であった。委員は熊谷茂さん（お出迎え）、熊谷恭一さん（司会）、板垣公さん（音響）を担当し、畠山幸男さん、板垣博文さん、畠山孝二さんの3人は受付、菅原清孝さんと菅原洋二さん、菅原邦典さんの3人は舞台、菅原時子さんと板垣幸子さん、熊谷幸子さんの3人は着席案内、辻村智さんは写真撮影を担当し、菅原教雄さんと熊谷敏江さん、伊藤眞貴子さんの3人は全体運営を担当した。開催までに、実行委員会を2回開き内容と担当者を決め、開催前日は舞台の設置や紅白の幕張、玄関と会場正面に看板、テーブルと椅子の搬入、テーブルに名札を付けるなどの作業に追われた。

当日は午前8時から送迎や受付、進行などの準備に入り、各テーブルには花や菓子折を並べている。何の行事でも同じであるが、華やかな裏側にこうした裏方の作業があるので、関わった方々に感謝している。

9区農家組合で研修会が行われる

第9区農家組合（菅原章博組合長）では、9月18日に9区自治公民館で30名が参加して研修会を行った。来賓に花巻農協理事の藤原正彦さんと営農センター石鳥谷の佐藤秀和さんを招いた。

菅原組合長から「今回も、コロナ禍を鑑み研修会のみですが、今後の農家のあり方を考える場になれば」と挨拶した。研修では最初に佐藤秀和石鳥谷センターによる「集落営農

ビジョンと地域計画」と題して、今年4月からこれまでの「人・農地プラン」が法定化され、農協の支店単位で地域計画を策定することに伴い集落営農ビジョンの様式も変更となり、各種補助事業の要件を確認しながら農家組合で年1回のペースで更新が必要となったと話された。続いてDVDを視聴しながら、猪と鹿の習性による被害と防護について学んだ。休憩後は「農業みらい企画」を去年立ち上げ、8月の岩手日報に掲載された菅原智子さんの長男である菅原祐さんが「移動販売から見た新しいビジネスチャンス」と題し、スライドを見せながら講演をおこなった。菅原さんはマーケティングアドバイザーの経験を生かして「野菜ソムリエ」の資格をとり、自作した移動販売車で主に無農薬や有機栽培にこだわった県内の農家（約40軒）から直接野菜を買い付け、移動販売や宅配販売（約40件）、ネットによる贈答用販売、飲食店（約30軒）にも販売している。「今の人の意識は、安全で良い物には少々高くても迷わずお金を払う。その為にも旨い物を見つけて調理の仕方もアドバイスしている」とのこと。B品野菜の販売や福祉施設へ傷物野菜を提供したり、オリジナル商品化（漬物等）して廃棄野菜を少なくし、県内農家の年収増加と新規就農者の増加を夢見て「ゆくゆくは首都圏にも県産品の魅力を伝えたい」と話していた。菅原さんの夢が実現するよう応援したいものだ。

3名の講師を呼んでの研修会を開催

第8区農家組合（菅原昭悦組合長）は9月24日に振興センターで36名が参加して研修会を行った。来賓に花巻農協理事の藤原正彦さんと石鳥谷支店長の藤原美代子さん、講師に3人の方々を迎え、これからの農業の在り方を研修した。

農家組合長の挨拶では「今年の夏は平均気温が2.3℃も高く42日間も真夏日が続きました。米価は1,400円上がったが、資材費も上がり厳しい環境にあります。是非この研修を参考にして農業を活性化してください」とあった。藤原正彦理事事は祝辞の中で「今年はカメムシの被害があり、お話のとおり品質の低下が懸念されます。現在、組合長は首都圏に頻繁に出向きトップセールスを行っております」と話された。

続いて3名の講師がそれぞれ講演を行った。はじめにジオファーム八幡平の代表である船橋慶延さんから、地熱と馬糞堆肥を活用して「八幡平マッシュルーム」を商品化するまでの経緯を聞いた。元々馬が大好きで馬に関わる仕事をしたいと思っていたところに縁があってこの地で事業化したと話していた。2番目には、当地9区にある南田家の菅原祐さん（この部分は9区農家組合研修会に記載）の講演。最後は、八幡平市安代町の（株）麴屋もとみや代表取締役の本宮隆一さんから、麴を生かした事業展開の経緯の話聞いた。創業は昭和5年からで、最初は麴や味噌作りから始まり、隆一さんは3代目で令和元年に家業を継ぎ色んな商品を開発して販売した。時代の変化とともに新展開のプロジェクトを立上げたが、自身の固定観念に拘ることを避け、プロジェクトメンバーから離れた。その結果が現在の新店舗になり、商品も増えて多くの集客に繋がったと話された。

今回の研修で3名の講師から話を聞くことができ、これからの農業を考えていく有意義な研修となった。

表彰（敬称略）

令和5年度花巻市中学校新人大会卓球競技
 団体2位 石鳥谷中学校団体選手 熊谷朋久
 男子個人4位 熊谷朋久（向田家 信人さん）
 県芸術写真部門賞
 板垣 弘清

訃報

○善助家の熊谷善志さんは9月14日に81歳で亡くなりました。7月に体調を崩して入院してましたが、こんなに急に亡くなり皆がびっくりしました。熊谷さんは農業改良普及員として千厩を初任地に、岩泉、水沢、前沢、紫波など各地の農業改良普及員として勤務し、この間に県農政部農業普及技術課に2回務めたこともありました。退職時は県立農業大学の教授でした。定年後は自宅で農業の傍ら、多くの役職を担い、地区に貢献をされた方でした。主なものだけでも第9区農家組合長、花巻農協総代、石鳥谷町農業員、大瀬川公民館長、大瀬川活性化会議会長、農事組合法人大瀬川副理事長、大瀬川第一老人クラブ会長、石鳥谷賢治の会会長、花巻市老連石鳥谷支部長代行などの役職は枚挙にいとまがありません。若い頃から卓球を愛し、数多くの入賞を果たした後に石鳥谷高齢者卓球同好会の会長もなされました。趣味の世界でも囲碁五段、川柳では県川柳連盟会長の熊谷岳朗さんが主宰する紫波川柳会に所属しました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
 ○柳田家の藤原スズエさんは9月20日に94歳で亡くなりました。奇しくもその日はご主人の美代二さんが亡くなられた日でもありました。藤原さんは百目木家のお生まれで、若い頃から農業一心に働かれた方でした。美代二さんは、記録に残る中では、大瀬川で最も若く杜氏さんをした方（昭和24年から須賀川酒類製造。南部杜氏名鑑より）で、その分農業はスズエさんが主に働かれました。仲良しであった菅原ミツ（堰合家）さんと菅原タエ子（堰端家）さんの3人で「今朝は、おめさん（あなた）に負けたな」などと、農作業の早起き競争のようでした。他にも藤原さんで思い出すのは漬物名人であったことです。近所の方々には「藤原さんの奈良漬ははとも美味しかったですよ」と懐かしがっていました。9区のゲートボール場には藤原さん夫婦が植えた「御衣黄桜・ぎょいこうざくら」は今年も珍しい花が咲いていました。この御衣黄桜はサトザクラの品種の1つで、開花したばかりの花は淡い緑色だが、徐々に黄色に変化していき、やがて花びらの中心部が赤く染まっていくのが特徴な桜です。昭和57年には、大瀬川婦人協議会農協婦人部長を担うなど多くの方に親しまれました藤原さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。